

Book Review

歯科がかかわる 地域包括ケアシステム入門

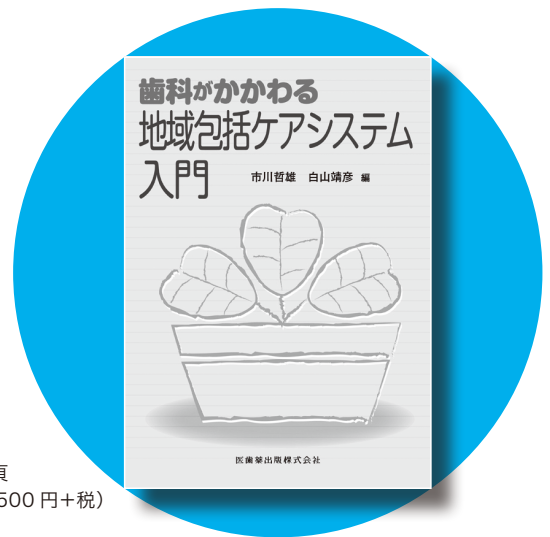
市川哲雄・白山靖彦 編



Reviewer

角 保徳 Yasunori Sumi
(国立長寿医療研究センター)

B5判, 120頁
定価(本体4,500円+税)
医歯薬出版刊



日本補綴歯科学会理事長の市川哲雄先生(徳島大学)が、超高齢社会を迎えたわが国の歯科医師にとってタイムリーな地域包括ケアシステムに関する解説書を出版された。国の方針である医療の場を“病院から在宅へ”のかけ声とともに、在宅歯科医療が推進されているが、そのなかで、近年“地域包括ケアシステム”という言葉がさかんに用いられている。しかし、歯科医療担当者が地域包括ケアシステムを十分理解していないのが現状ではないだろうか?“地域包括ケアシステムとは何だろうか?“, “地域包括ケアシステムという言葉が最近よく聞かれますが、自分の診療や将来展望との関係は?“, “地域包括ケアシステムにおける歯科の役割と参入方法は?“, “在宅歯科医療と地域包括ケアシステムとの関係は?”など、数々の疑問が浮かんでくる。

厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期ま

で続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。地域包括ケアシステムの最大のポイントは、高齢者が“住み慣れた地域”で介護や医療、生活支援サポートおよびサービスを受けられるよう、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」を包括的に整備していくという点である。

一方、わが国は世界に類をみない超高齢社会を迎えており、社会構造の変化、医療に対する価値観の変化、医療・看護・介護提供体制の整備、医療技術の進歩などにより、歯科医療に求められるものは高度化・多様化している。若年者の齲蝕の激減や8020運動の進展に代表されるように、要介護高齢者の残存歯の増加など歯科の疾病構造も変化しており、それに合わせて歯科医療そのものが変革を求められている。歯科医療は病巣を除去して人工物に置換し、形態を修復するという外科的療法を主体に発展してきた。しかし、口腔衛生管理が普及し、齲蝕や歯

周病の予防が進んだ日本においては、齲蝕や歯周病の処置、歯冠補綴や義歯に代表される形態修復中心の健常者型の歯科医療から、口腔ケア・口腔管理を行いながら口腔機能向上を目指す高齢者型の歯科医療へ転換する必要がある。さらに、歯科医師は多職種連携をベースとした口腔ケアの普及や在宅歯科医療を提供して地域包括ケアシステムのなかで貢献する必要がある。

このような背景の下、本書は高齢者を対象とした地域包括ケアシステムをわかりやすく解説した書籍である。10年後、20年後の歯科医療を考えると、在宅歯科医療、口腔ケア、口腔管理を通して地域包括ケアシステムに歯科医療担当者が参加できるように、地域における歯科医療担当者の役割の変化や社会制度について、項目ごとに解説されている。

在宅歯科医療を始める方はもとより、すでに在宅歯科医療に取り組んでいる方にも、ぜひ推薦したい。超高齢社会を迎えたわが国の歯科医師にとっては必読の書と言える。